

きんもくせい

平成23年 学校教育だより

December **12** 第311号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711 (内線622)

編集目標 人間尊重の教育を求めて



「自己ベストをめざして」 ～ロードレース大会～

写真提供／東中学校

「空」

富士見台中学校 三年

加 治 寿 恵

昨日

茜色の空をみた

なぜか

わあっと声のでた

どうしてだろう

嬉しかった

懐かしかった

心が

温かくなった

また

あの空に遭えるかな

情報化社会に生きる子どもたち

学習をしていて「これって何だろう」「〇〇について詳しく調べたい」と思うことはよくあることだと思えます。また、小学校の中学年や高学年になると、総合的な学習の時間や社会科などで「調べ学習」が増えてきます。

では、何かを「調べる」場合、どういった方法で「調べ」たらよいでしょうか。子どもたちはほとんどの場合、「インターネット」を思い浮かべます。しかし、調べたい内容によってはインターネットでは調べられなかったり、調べられたとしても、掲載されている情報が古かったり、間違っていたりすることもあります。

適切に情報を集め、判断していくことや、情報モラルを正しく理解する、「情報活用能力」を育てることが、これからの社会を生きていく子どもたちにとって重要だと考えています。

能力を育てる

指導者 水谷小学校教諭 和智 正悟

何で調べるか

子どもたちが「調べる」と

きには、①インターネット、②本、③インタビュアーや現地調査といった方法をとることが多くあります。このとき、調べる事柄によって情報手段を選択することが必要です。

六年生の一学期に「パンフレットを作ろう」という学習がありました。富士見市について知らない人に向けて、案内のパンフレットを作るというものです。

子どもたちは、家の近所のお店や商店街、市役所周辺の

様子についてグループに分かれ、調べることになりました。

インターネットでは地図やお店の電話番号といった基礎情報を調べることはできませんが、詳しい様子は調べることができません。ブログや掲示板でそのお店について語られていることはあっても、正しい情報が確かめなくてはなりません。

今回の調べ学習では、インタビュアーや現地調査を中心に進め、わかったことや思ったことを自分の言葉でまとめあげていました。



ふじみ野小学校 6年 青木 真白

楽しい声が広がるなかよしタイム。最後のオータムフェスティバルのお店は、「宝ほり」。6年生がいくつかゲームを考え、みんなで話し合い、意見を出し合い決まったのがこのゲーム。みんな、自分から進んで仕事をし、お店の準備をしてくれています。

最後のオータムフェスティバル

1・2年生は新聞をちぎり、3・4年生は5・6年生の切ったダンボールに色をぬったり……。

「次の材料、早くください。」

という声が多いのは、とてもうれしいことです。

みんなで考えたお店。みんな一生懸命準備をしています。他のみんなに喜んでもらえるといいです。



正しい情報を



実際に自分の目で見たり、インタビュアーをしったりすることができればよいのですが、そうはいかないこともあります。そういった時はインター



ネットで調べることが効果的です。

わかる授業

＝ 小学校の情報教育 ＝

児童の情報活用

特別支援教育

つるせ台小学校の交流

つるせ台小学校教諭 大塩 明

本校のひまわり学級は、男子六名・女子三名の計九名が在籍しています。音に敏感な子や言葉の理解がゆっくりな子など障がいや個性は様々ですが、みんな元気に生き生きと学校生活を送っています。

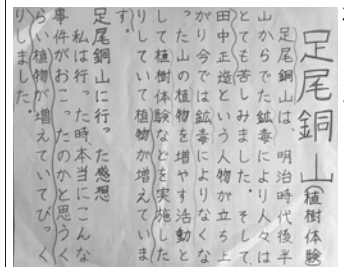
運動会では、ひまわり学級には暑さに弱い児童が多いので、練習の後半から遅れて参加することもありました。交流クラスの子どもたちが優

しく誘いに来てくれ、立ち位置などを親切に教えてくれました。失敗した時の励ましは包み込むようなさりげない優しさがありません。溶け込みやすい雰囲気をつくってくれたみんなに感謝しています。運動会当日は、周りの友達を励ましを力として組み体操やリレーをひまわり学級の全員が最後までがんばり、達成感を味わ

子どもたちは、検索したい言葉を入力すれば調べられることを知っています。しかし、検索した結果が正しいかどうか、確かめることはまずありません。学習の一環として、インターネットを使うのであれば、情報が正しいかどうかを吟味しなくてはなりません。レポート等にまとめるのであれば、出典も明らかにする必要があります。

修学旅行の事前学習として日光や足尾銅山について調べた際には、これらをおさえるとともに、著作権についても

触れました。



情報モラルを考える

最後に、子どもたちが直面している課題として情報モラルがあります。子どもたちは我々大人よりパソコンや携帯電話に幼いころから触れていることができず。運動会後も休み時間に遊びに来てくれ、クラスの仲間として考えてくれるようになってくれています。

お互いに優しい気持ちがあはぐくまれていく校風はつるせ台小の伝統です。

この伝統を続けていくために、ひまわり学級の良さをみんなに知ってもらえるような活動をしていきたいです。偏見のない社会・地域を目指して、誰もが過ごしやすい世の中をみんなのでつくっていきましょう。

ますが、判断力が不足していることから、トラブルに巻き込まれることもあります。また、情報を悪用する側も、そういった子どもたちの隙につけこんでいきます。

情報モラルについて指導するにあたり、「〇〇をしてはいけない」と禁止をしていくのではなく、いたちごっこになつてしまいます。ここでも情報を正しく「活用」することが大切で、インターネットやメールなどの仕組みを理解した上で、「どうしたらよいか」と考えさせていくことがこれからの社会を生きていく子どもたちに必要です。

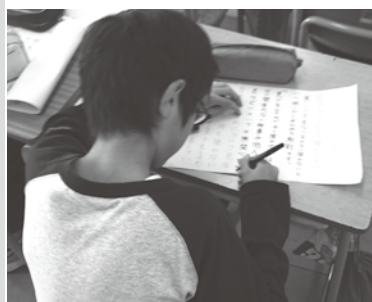
また、「情報モラルⅡ心構え」という考え方も注意が必要です。相手の立場になつて考え、間違えて送られたメールに返信をしよう、といったことも考えられます。情報モラルについては現在の学習指導要領でも取り上げることになりましたが、まずは正しく仕組みを理解することが大切です。

終わりに

調べるための情報がたくさんある現在では、正しい情報を読み取る力が必要です。時

には情報を批判的に受け取り、自分の頭で考えることも大事です。

調べ学習や情報モラルの学習を通して、子どもたちに考えるためのヒントを多く与えるようにしています。



情報活用能力を育成する

水谷小学校校長 大津 朋子

情報活用能力は、情報活用の実践力・情報の科学的な理解・情報社会に参画する態度の三つの要素があり、これらは、相互に関係し合っているものです。低学年のうちから、誰にどんなことを伝えたいのか、そのためにどんな手段でどんなことを調べるのかを意識して、調べ学習を積み重ねていくことが大切です。これからも、学校全体で地道な実践を共有し、児童の情報活用能力、そして、思考力・判断力・表現力を伸ばす教育活動を充実させていきましょう。

「生きる力」を身につけるには

針ヶ谷小学校PTA会長 並木 和明

「生きる力」とは何か？と問われ、まず思いついたのが『自ら考えて行動する力』である。

人はどんな時でも、判断をしてから行動を起こす。この判断が遅ければ、おのずと行動も遅くなり、判断を間違えば結果も思っていたものとは異なってしまう。従ってこの判断という要素が極めて重要になってくる。しかし、この

【判断】をさせない親が増えてきているのではないかと思う。例えば『○○しない』『○○やっておいてね』など、子どもたちに『なぜそれをやらなければならないのか？』をきちんと説明しているのだから？理由を説明し、子どもたちに考える時間・判断する時間を与えないまま行動させてはいけないと思う。

次に『自己主張能力』であろう。自分の気持ちをいかにして相手に伝えるか？子どものみならず、大人でさえ自分の意見や考えを周囲に的確に伝えられているだろうか？親ができる事としては、どんな

小さな事でも子どもの話にはしっかりと耳を傾ける事である。学校の事、友達の事、その日にあつた出来事を聞いてあげるだけでも親に自分の気持ちを伝えようとする為、考えて発言する力が養われる。また、それだけでなく、子どもも自分の話を聞いてくれているという安心感や満足感が得られるのではないかと思う。最後に『コミュニケーション能力』これは、より多くの人との関わりの中で自らが習得する力である為、年齢や性別（できれば国籍や人種）を問わず、より多くの人と触れ合える環境を提供する事が大切だと考える。

以上、三つの力を育てる事でおのずと、「生きる力」は身につけていくであろうと考える。

「針小学習応援団」



はぐくむ

～学校・家庭・地域から～



秋まつり、とちのみランド

関沢小学校

「いらっしやい、いらっしやい。」と元気なかけ声。

とちのみ買利物券を握りしめて、園児たちが何に交換しようかとお店をまわっています。

昨年度より、関沢小学校では、幼保小連携の一環として幼稚園と連携をはかり、「秋まつり、とちのみランド」を行っています。

校内にあるとちの実や遠足で行った東原親水公園で見つ

けた落ち葉やどんぐりなどを利用して、アクセサリーやコマなどを作って園児たちを招待します。

みんなに喜んでもらうために、工夫を凝らして作品づくりやお店づくりを進めています。今年度は、みふじ幼稚園のみなさんの他に、第4保育所のみなさんも招待して大にぎわいになりそうです。

低学年のうちから、ふれあいを通して、もてなす心や思

いやりの気持ちを持ち「生きる力」をはぐくんでいきたいと思えます。



地域との交流の中での子育て

水谷中学校保護者 佐藤 初江

我が家には、三人の子どもがいます。大学生、高校生、中学生の三人ですが、それぞれ自分らしさを発揮して元気に毎日を過ごしています。

これまでの我が家の子育ては、地域の大人や子どもたちとの交流無くしては語れませんが、最も思い出深いのは、水谷公民館で現在も行われている「水谷青空学校」（毎年、夏休みを利用して小学校三年生から六年生までを対象に一泊二日で行われています。）に参加してきたことです。

十年前に長女が初めて参加し、次女、長男と続けて参加し、多くの地域の方々と触れ合い、同年齢や異年齢の子どもたちと学び、大きな刺激を受けてきました。初めて親と離れて泊まるなど、経験のない活動をしたり、知らない子どもと出会い新たな友達を作ったりすることが、三人の成長に大きな糧となったと思

ます。
当時の感想文集を読み返してみると、「来年も再来年も参加したい」とか「来年は指導員になる」と書いてありました。活き活きとした笑顔や帰宅してからのたくましさを感じられる言動などが今でも目の前に浮かんできます。

子育て（教育）は家庭に第一義的な責任がありますが、地域との交流で、様々な方々のお力もお借りして子育てができることはとても幸せなことだと思っています。

この貴重な体験を忘れずに、



「土曜学習会」

西中学校

本校では、「生きる力」をはぐくみ、生徒の学力向上をめざし、今年度から「土曜学習会」を行っています。定期テスト前の土曜日に、三時間の学習を行います。本校の教員をはじめ、時には校長自ら教壇に立つなど、生徒たちのサポートを行っています。生徒の九割以上が参加し、よい雰囲気での学習に取り組んでいます。

「土曜学習会」を通じて、生徒たちの学習に対する意識が高まり、特に受験をひかえた三年生には大きな変化が見られます。休日を利用しての学習会ですが、「学習する習慣」、「規則正しい生活リズムの確立」にもつながると感じています。加えて、近隣の大学生（将来教員を志望）や教育実習生の協力を得て、本校の教員以外の人たちと接すること



学び得たことを次に繋いでいけるような生き方をしてほしいと願っています。

教育課題特集

生きる力を

「関わり、関心が湧く」

地域子ども教室かつせらんどサポーター 高田 千春

ふと立ち止まり、思い返してみると。子育てをする中で、たくさんの方の知り合いや仲間が増えた事に気づきました。

はじめは、子どものために軽い気持ちで参加したPTA活動でした。活動していく中で関心が湧き、学校や子どもたちの事について考え、先生や保護者とコミュニケーションをとる事で、自分の世界が広がっていったと思います。

現在、私はスクールガードリーダーとして、学校・保護者の方々によく話し合いながら、防犯ボランティア活動に取り組んでいます。

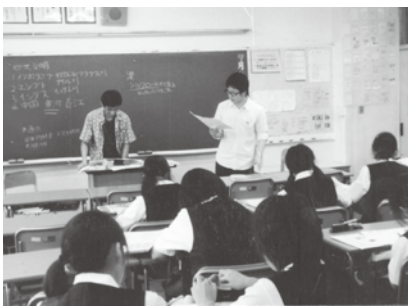
はじめは、『かつせらんど（地域子ども教室）』での子どもの下校を見守るパトロールからスタートし、活動は徐々に広がり、学年ごとに時間のばらつきのある下校は、登校に比べて危険度が高いのでは。」との意見が多く寄せられたことから、学校応援団としても十月より低学年下校見守りパトロールを始めました。

地域子ども教室と学校応援団は、事業は異なりますが、

互いに理解し、取り組みや活動に関わりをもたせることから始めました。

これまで自主的にパトロールをしてくださっている地域の方々への感謝の気持ちが増し、たくさんの方々を支えられて子どもたちは成長しているのだと、改めて感じました。

『よく解らないが始めてみて、そこから関心が湧くのも一つのきっかけ』として、これからも、子どもたちに「関わり、関心が湧く」ことの大切さを伝え、わずかでも背中を押してあげられる存在になれたらと思います。



で、他人とのかかわり方も学べるのではないかと考えています。まさに地域の風が学校に吹き込み、絆をつくり、生徒の「生きる力」をはぐくむと考えています。



人間尊重教育推進

わたしたちのまちに 育てよう 人間尊重の心 広げよう

一 富士見市は人間尊重宣言都市です
私たちのまち富士見市は、昭和四十一年に人間尊重都市宣言をしました。

「からだと心の健康を高めよう」
「自分を大切にするとともに、他人を尊重しよう」
「個性をよりよく生かし社会のために役立てよう」
と呼びかけながら私たちのまちを人間尊重のまちにすることを宣言したのです。

二 学校における人間尊重

市内の小・中・特別支援学校では、一人ひとりの子どもたちに確かな学力を身につけさせるとともに、人間らしくよりよく生きる心をはぐくむための教育が実践されています。

また、すべての教職員により一人ひとりの子どもたちが大切にされ、互いに尊重し合い、信頼関係で結ばれた学校づくりが進められています。

三 家庭教育における人間尊重

子どもにとって家庭は、安らぎの場所であり、人間としての生き方を学ぶかけがえのない場です。また、親子のコミュニケーションは、食事が体をつくるのと同じように、子どもの豊かな心をはぐくむこととなります。家庭での温かい言葉かけは、子どもの心を育てる栄養となります。

毎日の家庭生活の中で、やさしさや思いやりなどの豊かな心が育つことを願って「家庭における人間尊重教育十か条」が作成されており、ご活用ください。

家庭、学校・行政が力を合わせ、一体となつて子どもたちの健全な育成に努力していきましょう



ヤッタ! きまった!! ロックソーラン3年生 (ふじみ野小)



親子除草 (関沢小)

家庭における人間尊重教育十か条

- 一 一人のいのちを大切にしたいのちある動物、植物をいたわりましょう
- 二 健康を大切にし 正しい食事と適度な運動からだづくりにつとめましょう
- 三 おはよう、おやすみ、たぐい、おかえりのことが聞こえる温かい家庭をつくりましょう
- 四 ありがとう、ごきげんようさまの素直なことばで感謝の心を育てましょう
- 五 家族の仕事を分担し
- 六 家族の一員としての役割をはたしましょう
- 七 人の喜びを喜びとし 人の心の痛みを分かちあい助けあつていきましょう
- 八 やさしさ いたわりの心を大切にしよう
- 九 おとしりの方々々に学びましょう
- 十 物物大切に心を育てましょう
- 九 正しくやさしいことはですつまつまられた明るい家庭をつくりましょう
- 十 正しいことをつらぬく強い心で勇氣ある行動をとりましょう

人間尊重わたしたちの合言葉

広げよう 差別をなくす 笑顔のわ

(鶴瀬小学校 五年 白川 怜奈)

やさしさは 心をつなぐ キーワード

(諏訪小学校 五年 村井 風馬)

自分から みんなにあいさつ いい気持ち

(みずほ台小学校 五年 松本 真宗)

あいさつは 笑顔をつくる 合言葉

(東中学校 一年 遠藤 綾乃)

どうしたの その優しさが 救いです

(西中学校 一年 中園 紗彩)

あいさつは 輪と輪をつなげる 縁結び

(水谷中学校 一年 渋谷 朱里)

入間郡市同和对策協議会
入間地区人権教育推進協議会 応募標語より
富士見市人権教育推進協議会



車椅子体験 (勝瀬中)



教室を花いっぱい!
(富士見特別支援学校)

人間尊重・私の主張

人権問題について

いじめから分かった事。



本郷中学校 三年
月岡 果穂

私は、「いじめられる側にも理由がある。」という言葉を耳にした事があります。学校生活の中で実際に聞いた事はありませんが、テレビ番組で学校の現状も良く知らないであろう議員とタレント達がいじめをテーマに言い争っている場面で見えた事があります。「いじめられる側にも理由がある。」そもそもいじめとは何なのだろうと私は考えてみました。

いじめられる側の人間がどのような気持ちで他人を傷付けるのか私は知っています。というより、私は小学生の時に同じクラスの子をいじめた事があります。その時にやってしまった事を具体的に挙げると、無視や仲間外れにする事です。今思い出して見ると自分のしてしまった事は半分も覚えていません。ですが、いじめた時の相手の顔は、はっきりと覚えています。その顔を何て言っても良いか分かりませんが、とにかく頭に残っています。

私がいじめた子からすれば、「お前にとやかく言われたくないし、私の気持ちがあつたままか。」と思うはずで、「いじめた奴に何が分かるんだ。」きつとそんな風に考えます。私はいじめられる側になって気がついた事が沢山ありました。

一つは、自分に対して悲しい気持ちになった事です。私が相手の子の心を傷付けるような事

を言った時、その子が何かをぐっつと堪えたのを見て、「自分は何をやっているのだろう。」と思いました。「こんなくだらない事をして人を傷付けて何が楽しいの。」と疑問に思ったとたん、教室にいる私といじめられている子の二人だけが違う世界に連れて行かれ、次第に周りが暗くなつて何も見えなくなりました。私の隣にいるいじめの時だけ繋がる偽りの友達たちのバカにする笑い声も徐々に小さくなり静寂に包まれたのを覚えていきます。

二つ目は、私以外の子達がその子がいじめているのを見て、「何やっているの、その子が嫌がつているじゃん。」と自分がいじめている時とは全く違う気持ちの底から湧いて来た事です。普段は自分がいじめられているくせに他の子がいじめを囲んで悪口を言っているのを見て、いじめられている子達がバカに見え、逆にいじめられている子が大人に見えました。その時に、「私がいつもやっている事は、はたから見たらこんなにバカな事なのか。」と気がつき、その想いと同時に「自分は何様なのか、あの子を傷付ける権利は私には無いだろう。」と恥ずかしい気持ちになりました。

それ以来、私はいじめなんかしていません。していないというより、出来ません。私がいじめをしたという事をここに書いても、声に出しても相手の心からいじめの事実は消えないし、やってしまった罪を無くす事も出来ません。いじめられる側が楽しくも無く、いじめられる側ももちろん楽しく無い、そんないじめからは何も得られないとても無駄な行為なんだと私は気がつきました。

そして、その子がいじめられる事から抜けたとたん今度は私がいじめの対象となり、仲間外れにされました。最初は自分もやっていた事なんだ

し自業自得と思っていました。でも、良く考えてみると私がいじめられているのは私がいじめた子達では無く、あの時一緒にいじめをしていた側の子達でした。その事に気づき無性に腹が立ちました。私にいじめられた子が私を復讐としていじめられるのなら、まだ我慢出来ません。ですが、私がいじめられているのはついこの間まで一緒に遊んでいた友達。いじめられて本当のいじめの怖さを知りました。直接の原因と何も関係無かった人達までいじめに加わり、抜けた人を次のターゲットにしてまたいじめ。普通ではあり得ない事がいじめでは当たり前のようにくり返し行われていました。自分にやられて初めて苦しさや辛さが分かり、いじめてしまった後悔と申し訳ないという気持ちで心を埋めつくしました。

皆が私を仲間外れにする中で、勇気を持って私に話しかけてくれたり、「大丈夫？」と心配してくれる子も沢山いました。その子達の助けもあり、私はいじめを乗り越える事が出来ました。そして、その時助けてくれた子達は本当の友達と言える大切な存在になりました。

ですが、私には一つ許せない事があります。今現在いじめをしている人がこの人権作文を書いていいる事です。普通の顔をして「いじめは悪い事です。」と言っている人達が許せません。いじめをしたのなら堂々と皆が納得するような言い分を言ってもらいたいです。

最後に、私はいじめられる側といじめられる側を経験して共通するものがありました。それは何も得られない、という事です。私の場合いじめられて分かった事や本当の友達を見つけた事はありません。これからはいじめを経験しなくても本当の友達を見極め、楽しく充実した学校生活を送っていききたいです。

教育委員会だより

◆高等学校・大学等への入学に係る利子補給制度のご案内

この制度は、高校、専修学校、専門学校、短期大学及び大学への入学予定者の保護者の方が、日本政策金融公庫の教育一般貸付（入学資金）を受けた場合に、その返済利子の一部又は全部を助成し、経済的負担の軽減を図るものです。

◇利子補給対象者

- (1) 市内在住の方
- (2) 市税を滞納していない方
- (3) 日本政策金融公庫からの教育一般貸付の融資（入学準備金融資産）を受けている方

◇利子補給額

利子補給金は、融資額の内70万円以内の額を限度とし、融資を受けた利率で、返済期間5年以内、元利均等月賦償還、据置期間なしで計算した利子の額を市が補助をする。

◇利子補給期間

5年以内

◇申請手続き及び問合せ

教育委員会教育政策課まで（富士見市立中央図書館2階）
TEL 049-251-2711（内線611）

※教育一般貸付の融資に関する問合せは、日本政策金融公庫へ

日本政策金融公庫 川越支店
〒350-1123
川越市脇田本町14番1（日本生命ビル5階）
電話（お申込み相談）049-246-4171

書きぞめ展のお知らせ

《市内展》日時：2月1日(水)17:00~21:00
2日(木) 9:00~21:00
3日(金) 9:00~14:00

場所：富士見市総合体育館サテライト

《中央展》日時：1月28日(土)9:00~16:00
29日(日)9:00~16:00

場所：さいたま市立岩槻小学校

東日本大震災より、八か月が経つ。先日ある研修会で、釜石の防災教育に関わった群馬大学の片田敏孝教授の話を聞くことができた。

『避難三原則』を守り抜いた釜石の奇跡 防災教育で児童生徒無事』の新聞の見出しは悲しみの中、勇気づけられたことは記憶に新しい。釜石の子供たちがなぜ無事に避難ができたのか。片田教授の「避難三原則」とは、一、想定にとらわれるな。二、最善をつくせ。これ以上の対応はないという姿勢で自然に向き合え。三、いざという時、まずは自分が助かれば、結果的に多くの人を助けることにつながるということを、ずっと教育し続けて八年。「助けられる立場ではなく助ける立場になれ」の指導は、主体的に生き抜く力、命を守ることに行動につながる。

米国グランドキャニオンは台地からコロラド川の水面までの高さ約千五百メートル転落防止柵は、ほとんどない「ご自由どうぞ、ただし、自分の責任で」ということなのだそうである。（忽滑谷）



横浜旅行記

富士見特別支援学校教諭

庄司 真由美



十月中旬、中学二年の校外宿泊学習があり、横浜に行った。事前の授業では、教室の入口を中華街の東門風に飾り、中国語のBGMを流し、教員もチャイナドレスを着て、演

絶対できない経験だ。人の波にもまねながら、生徒たちは一時間耐えた。さぞ怖く、疲れただろう。しかしながら、今までの経験と横浜への期待が後押しして、マナーよく電

の中、一人だけ「痛い！」と言つて座り込んだ子がいた。どうやら「高い！」と言いたかったようだが、彼が受けた衝撃は、十分に伝わってきた。それも、本物を体験してこそその衝撃である。

生徒たちの心を響かせるのは、やはり本物が一番。そのためには、目的地で公共機関を利用する方法や、マナーを身につけなければならぬ。

今回の旅では、電子マネーを使い、駅の改札を通る学習をした。何度も挑戦し、何度も失敗した。しかし、旅の帰路、保護者が待つ最後の改札では、自分の力でカードをかざし、誇らしげに改札を出た生徒たちの姿がそこにあった。

編集日記

東日本大震災より、八か月が経つ。先日ある研修会で、釜石の防災教育に関わった群馬大学の片田敏孝教授の話を聞くことができた。